

ラークスパーの抑制作型における短日処理の効果

ラークスパーのサンシャインライラックでは7月中旬以降定植の作型において、育苗期および定植後30日間の短日処理により切花長、切花重の増加が見られ2L品率が向上する。また、開花遅延効果についてみると、定植時期の違いにより差はあるが、短日処理により約10日以上開花を遅延させることができる。

表1 定植後の短日処理が品質に及ぼす影響

定植日 (播種日)	短日処理 の有無	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎径 (mm)	節数 (節)	花穂長 (cm)	分枝数 (本)
07/09 (06/04)	有	88.4	24.8	4.6	16.4	30.6	4.2
07/17 (06/20)	有	99.9	36.9	5.1	18.5	31.9	5.7
07/17 (06/20)	無	95.8	28.3	4.9	16.2	27.5	5.3
08/09 (07/05)	有	111.7	52.4	5.9	17.7	36.6	5.5
08/09 (07/05)	無	101.9	40.7	5.4	17.2	35.4	5.4

7月中旬以降に定植する作型では、育苗期および定植後に9時間日長で30日間短日処理(被覆資材:ホワイトシルバー100被覆時間:午後5時~翌朝8時)を行うことで切花長、切花重等が増加し品質が向上する。

生育期間中は温度管理に注意し、日中は25度以下を目標に管理する。また育苗期間中は、夜温15度での管理を目標とする。

7月中旬以降に定植する作型では育苗期及び定植後に30日間短日処理をすることで、2L品の割合が増加し、遅い作型ほどその割合が増加する。

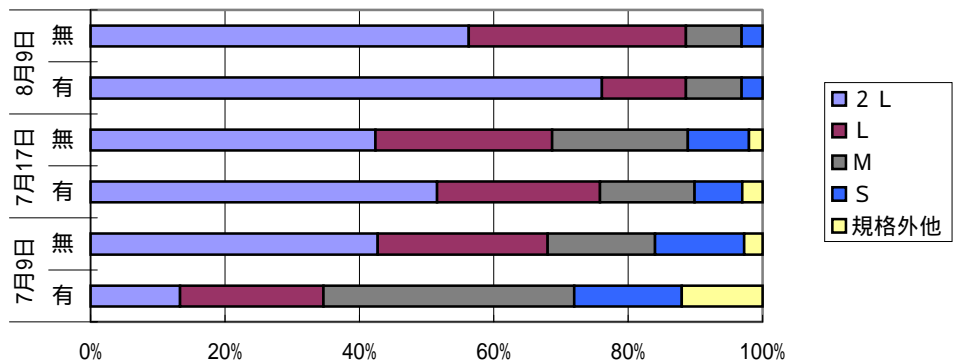


図1 短日処理が規格別採花割合に及ぼす影響

表2 短日処理が採花期に及ぼす影響

定植日	短日処理の有無	採花始期	採花盛期	採花終期
07/09	有	08/30	09/06	09/12
	無	08/24	08/28	09/04
07/17	有	09/13	09/19	10/05
	無	09/05	09/08	09/13
08/09	有	10/16	10/29	11/13
	無	10/05	10/09	10/18

短日処理により、約10日以上開花を遅延させることができ、定植時期が遅くなるほど開花遅延効果は大きくなる。